

マイクロマシン／MEMS 分野関連 経済報告 2023 年 3月号

2023年3月1日
(一財) マイクロマシンセンター
<https://www.mmc.or.jp/>

マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。今月の経済報告をお届けします。

掲載内容

1. 全般動向 (内閣府発表 景気動向指数より)
2. 各経済指標
 - ・内閣府公表 月例経済報告 より
 - ・内閣府公表 設備投資 (機械受注統計調査報告) より
 - ・経済産業省公表 鉱工業指数調査より
3. その他の動向

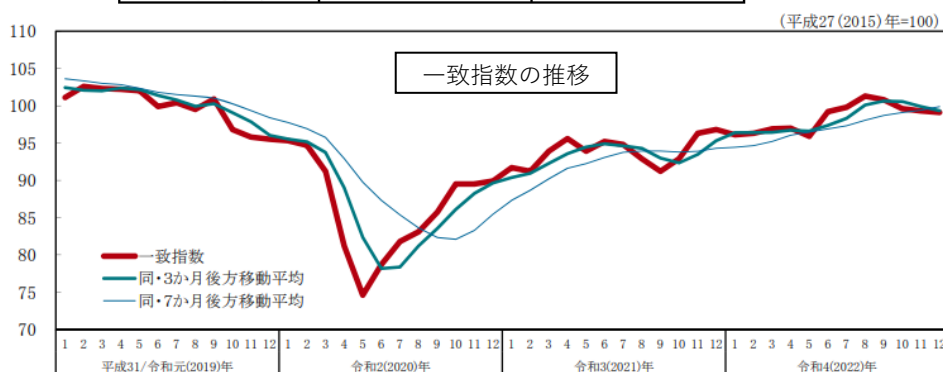
1. 全般動向

■ 景気動向指数 (改訂値) 結果 (内閣府、経済社会総合研究所 発表より抜粋) 令和 4 (2022) 年12月分速報からの改訂状況 (令和5(2023)年2月27日発表) より

▶ <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/202212rsummary.pdf>

- ① 12月分 CI (平成 27(2015)年 = 100) (改訂値)は、
先行指数：97.2、一致指数：99.1、遅行指数：99.6
- ② 一致指数の基調判断
景気動向指数 (C I 一致指数) は、改善を示している。

	12月分 C I (平成27(2015)年=100)	
	速報	改訂
先行指数	97.2	97.2
一致指数	98.9	99.1
遅行指数	98.9	99.6



▶ 内閣府「景気動向指数」関連 TOP ページ：

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di.html>

▶ 参考 - 景気動向指数「令和 4 (2022) 年12月分 (速報) (令和5年2月7日公表)」 pdf：

(概要) <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/202212psummary.pdf>

(速報資料) <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/202212report.pdf>

2. 各経済指標

■ 月例経済報告（2月）（内閣府、令和5年2月21日 公表）

（「月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料」より抜粋）

▶ <https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2023/02kaigi.pdf>

<日本経済の基調判断>

（現状）【判断維持】

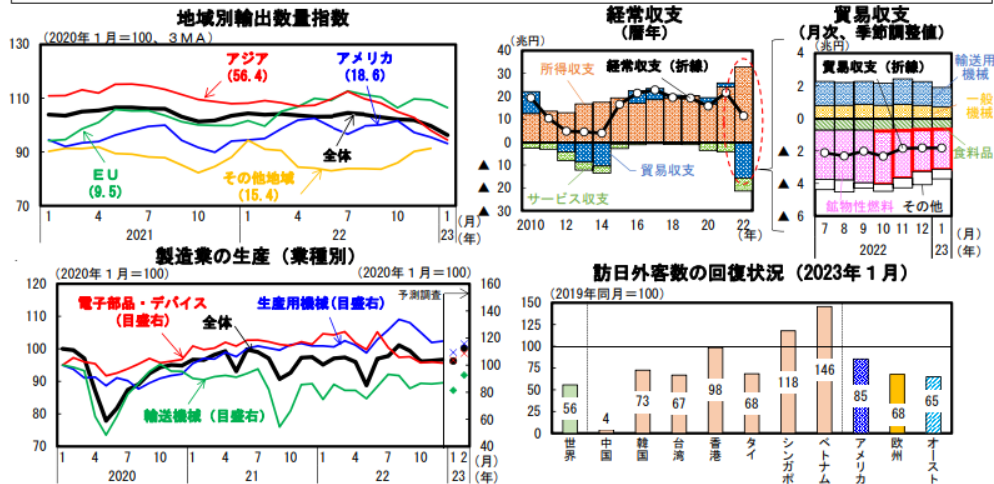
- ・ 景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

（先行き）

- ・ 先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

今月の指標(3) 輸出と生産の動向

- ▶ 我が国の輸出は、半導体市況の軟化や中国の感染拡大を背景にアジア向けで減少し、全体として弱含み。こうした中、製造業の生産も持ち直しの動きに足踏み。
- ▶ 2022年の経常収支は、秋ごろまでの資源価格上昇や円安などを受け、貿易収支は過去最大の赤字幅。一方、所得収支は過去最大の黒字幅。貿易収支を月次の季節調整値で見ると、昨年秋以降は原油価格の下落等を背景に鉱物性燃料の赤字幅が緩やかに縮小、1月は前月比で横ばい。
- ▶ 訪日外客数は堅調に増加。国別に19年比での回復状況をみると、23年1月は多くの国で7割程度がそれ以上の水準まで回復。



(備考) 1. 左上図は、財務省「貿易統計」により作成。内閣府による季節調整値。0. 内は、2022年の輸出金額シェア。その他地域は、アジア、アメリカ、EU以外の地域。なお、左下の図は、経済産業省「製造業統計」により作成。
2. 左下図(左)は、財務省「貿易統計」により作成。右側(右)は、財務省「貿易統計」により作成。品目別は内閣府による季節調整値。
3. 右下図(左)は、財務省「貿易統計」により作成。右側(右)は、財務省「貿易統計」により作成。品目別は内閣府による季節調整値。
4. 右下図は、日本政府観光局(JNTO)により作成。統計は、英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペインの合計。

- ▶ 内閣府「月例経済報告（令和5年2月）」(pdf)：
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2023/0221getsurei/main.pdf>
- ▶ 内閣府「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」TOP ページ：
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/kaigi.html>
- ▶ 内閣府「月例経済報告」TOP ページ：
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

■ 設備投資 令和4年12月実績：機械受注統計調査報告

(令和5年2月16日 内閣府 経済社会総合研究所 公表より抜粋)

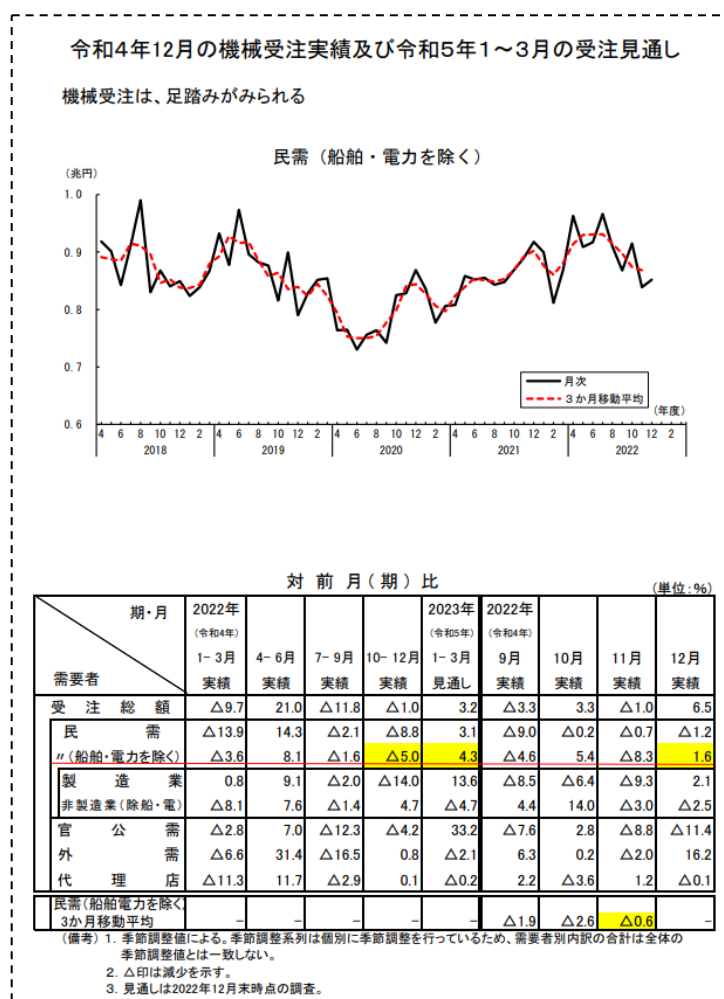
▶ <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/2022/2212juchu.html>

調査結果の概要（季節調整値）：

1. 機械受注総額の動向をみると、
2022（令和4）年11月前月比1.0%減の後、12月は同6.5%増の2兆8,287億円となった。
2. 需要者別にみると、
民需は前月比1.2%減の9,597億円、官公需は同11.4%減の2,176億円、外需は同16.2%増の1兆4,788億円、代理店は同0.1%減の1,193億円となった。
3. 民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、
2022（令和4）年11月前月比8.3%減の後、12月は同1.6%増の8,519億円となった。このうち、
製造業は同2.1%増の3,941億円、非製造業（除く船舶・電力）は同2.5%減の4,581億円となった。

(以下図表は「令和4年12月の機械受注実績 概要（PDF版）」より抜粋)

▶ <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/2022/2212gaiyou.pdf>



▶ 参考-機械受注統計調査報告（令和4年12月実績）

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/2022/2212juchu-1.pdf>

▶ 内閣府「経済社会総合研究所 統計表一覧：機械受注統計調査報告関連」TOP ページ：

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html>

■ 鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)

～製造業の動きから見る日本の景気～（経済産業省 2023年2月28日発表）

【2023年1月分】鉱工業指数の動向（速報）より抜粋

- ▶ https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2015_202301sj.pdf
- ▶ https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/book/b2015_202301sj.html

－ 生産は弱含み －

- ・ 今月は生産、出荷、在庫は低下、在庫率は上昇であった。
- ・ 製造工業生産予測調査によると、2月、3月ともに上昇を予測している。
- ・ 総じてみれば、生産は弱含んでいる。

・生産は、前月比-4.6%の低下。

低下業種：自動車工業、生産用機械工業、電子部品・デバイス工業等

上昇業種：汎用・業務用機械工業、化学工業（除、無機・有機化学工業・医薬品）、石油・石炭製品工業

・出荷は、前月比-3.1%の低下。

低下業種：自動車工業、生産用機械工業、鉄鋼・非鉄金属工業等

上昇業種：石油・石炭製品工業、汎用・業務用機械工業、化学工業（除、無機・有機化学工業・医薬品）等

・在庫は、前月比-0.9%の低下。

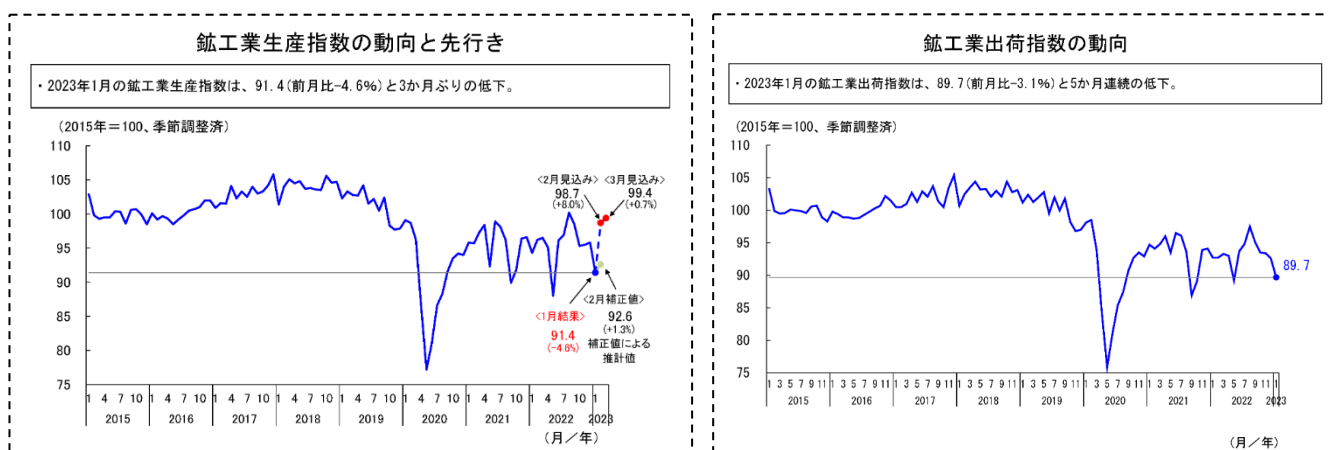
低下業種：自動車工業、鉄鋼・非鉄金属工業、石油・石炭製品工業等

上昇業種：電子部品・デバイス工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業等

1月の「最新指数の解説」より抜粋

- ▶ https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/archive/kako/20230228_1.html

（解説） 1月の鉱工業生産は、自動車工業や生産用機械工業を始めとして多くの業種が低下したことから、全体として前月比マイナス4.6%と、3か月ぶりの低下。基調判断は、「弱含み」に据え置き。



詳細は以下の経済産業省 ホームページをご参照下さい。

鉱工業指数（最新の）「結果の概要」:

- ▶ <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

3. その他の動向

■ 電子部品グローバル出荷統計

(一社) 電子情報技術産業協会 (JEITA)、2023年2月28日発表より抜粋)

【2022年12月動向概況】

- ・ 2022年12月のグローバル出荷額は
3,423億円、前年比94.0%となり、前年比マイナスとなった。
- ・ 品目別出荷は
受動部品 (前年比93.9% 1,633億円)、接続部品 (同98.4% 856億円)、
変換部品 (同88.2% 493億円)、その他の電子部品 (同93.1% 440億円) となった。
- ・ 地域別出荷は
日本 (前年比93.9% 766億円)、米州 (同112.8% 388億円)、
欧州 (同109.8% 323億円)、中国 (同85.0% 1,188億円)、
アジア・その他 (同96.1% 751億円) となった。

【月別出荷金額】

1. 月別出荷金額 (2023.02.28発表: 毎月更新)

電子部品出荷額 (億円)	2022年度						2022年度累計		
	10月		11月		12月		4月-12月		
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	
世界計	3,971	112	3,787	96	3,423	94	33,675	104	
(日本)	815	106	783	89	766	93	6,818	99	
品目別	受動部品	1,806	105	1,759	94	1,633	93	16,078	103
	コンデンサ	1,258	103	1,235	92	1,147	92	11,341	102
	抵抗器	177	115	175	111	159	102	1,547	112
	トランス	48	138	52	130	49	124	418	128
	インダクタ	284	110	257	90	247	94	2,412	100
	その他	37	85	37	81	29	66	357	96
	接続部品	998	122	928	103	856	98	8,293	110
	スイッチ	379	121	379	109	331	101	3,137	109
	コネクタ	615	122	544	99	521	96	5,124	110
	その他	4	147	4	149	3	105	31	116
	変換部品	701	127	649	93	493	88	5,307	110
	音響部品	24	102	20	71	19	69	209	84
	センサ	211	98	203	90	194	89	1,856	93
	アクチュエータ	465	148	425	96	279	89	3,241	126
	その他の電子部品	465	104	450	93	440	93	3,995	95
	電源部品	246	141	259	144	235	125	2,020	124
高周波部品	218	81	191	63	205	72	1,975	76	

【地域別出荷金額】

2. 地域別出荷金額

«2022年度»

地域別出荷金額 (億円)	2022年度						2022年度累計	
	10月		11月		12月		4月-12月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
グローバル	3,971	112	3,787	96	3,423	94	33,675	104
日本	815	106	783	89	766	93	6,818	99
米州	463	140	428	119	388	112	3,900	128
欧州	392	125	409	113	323	109	3,341	114
中国	1,392	109	1,257	85	1,188	85	11,994	97
アジア他	899	107	904	105	751	96	7,578	109

詳細は以下の JEITA (電子情報技術産業協会) ホームページをご参照下さい。

▶ https://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

以上